

研究の概要

研究主題

「良好な学習集団づくりを目指した体育健康教育の充実」

1. 主題設定の理由

本校では、急激な児童数の増加により、平成29年12月と令和3年3月に校庭に仮設校舎の設置を行った。校庭にプレハブ校舎が2棟建ったことによる運動敷地不足、児童数の増加に伴い、一度に校庭に出られる人数が限られ運動機会が減少（休み時間の校庭・体育館遊びが各学年週に1回ずつ）するなどの課題があった。また、新型コロナウイルス感染症による制限もかかったことで、緩やかではあるが、年々児童の運動能力は低下していった。同時に、他者と関わり合う場が激減したことによるコミュニケーション力の低下も顕著で、主体的・対話的で深い学びを実現するための基盤となる「良好な学習集団」が構築しづらくなった。以上のことから、これらを改善するために、体育科を中心に校内研究を進め、令和4年度より「東京都教育委員会体育教育推進校」として2年間研究指定を受けることとした。そして、研究主題を「良好な学習集団づくりを目指した体育健康教育の充実」と設定し、研究を進めていくこととした。

まず、本校の研究主題である「良好な学習集団」に近付くためには、最小単位である「良好な学級集団」づくりが欠かせないと考えた。そのためには、担任一人一人の学級経営力の向上が必要である。そこで、全校体制で「体育健康教育」における授業力向上を目指しながら、同時に学級経営力向上も図っていこうと考えた。なぜなら、体育健康教育の学習では、授業展開の工夫により、1時間の中で達成感を味わわせ易いことに加え、発言の仕方や児童同士の認め合い、意見や考えが対立した際の解決方法など、学級の土台づくりや人間関係づくりに必要な場面が現れやすいからである。認め合える児童同士の関係づくりを体育健康教育の学習活動を通して構築していくことで「良好な学習集団づくり」に近づけていきたいと考えた。他にも、本校と隣接している中学校と連携することによる運動機会の増加や、健康的な生活習慣の定着を図るために大学等の外部機関とも連携して研究を進めるなど、運動だけに限らず健康な生活を送るための素地となる意識改善にも取り組むことで、児童が生涯を通じて「明るく豊かで活力ある生活ができる力」を育ていけると考える。

体育健康教育の学習を中心に、「わかる」「わかる」「はい、できた」の「わ・か・ば」をキーワードとし、どの授業でも、子どもたちが理解し安心して活動に取り組むことができる環境をつくる。そして、他者と関わることで課題を解決したり楽しさを共有したりし、達成感を味わわせる。これらの活動を繰り返し経験することが、児童の笑顔の増加につながり、結果として「良好な学習集団」にもつながっていくと考える。